

## <随想>現代の子ども：塾を通して見る

著者	鈴木 幸子
雑誌名	日本文学誌要
巻	61
ページ	92-93
発行年	2000-03-24
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00020103">http://hdl.handle.net/10114/00020103</a>

## 現代の子ども

―塾を通して見る―

鈴木 幸子

ファンデーションに口紅差して、衣装を替え私の舞台への登場である。今日も可愛いお客様を満足させて帰宅させねばと準備OK。

「こんにちは」元気よく入場する子供達。宿題を提出し乍ら、学校の先生、友達、家族のことを話してくれる。一息入れたところで勉強がスタートする。新出漢字の書き順を覚えて喜ぶ一年生、掛け算に苦しむ二年生、割り算苦手の三年生、文章問題に悩む抜く上級生、正解に辿り着いた時の笑顔は生き／＼として素晴らしい。忘れかけていた学ぶことの喜び、感動、エネルギーを生徒さん達に与えられ、幸せな瞬間である。大村はま先生が「教師の仕事はこわいもので、人を育てる本当の仕事を見つめ、畏れながら、力を尽す。ありあわせ、持ち合わせの力で授業をしない。何事かを加えて教室へ向かい、何事かを加えられて教室を出たい。」と言っているが、今日は実行できたか反省し幕を閉じる。

昨年からカード遊びが学校で流行し、塾でも遊ぶ。はじめが

つかないと困るので、希望の勉強時間を一時間決め、十分間休憩時間をゲームタイムにした。ゲームを行う為に勉強がスピーディになった。私も仲間に入って、トランプ、七並べ、婆抜き、爺抜き、殺しの七並べ、大富豪、豚の尻尾、スピードで遊び今はウノに人気が集中している。

夏休みを終え九月に入った学習日、U君が弟と一緒にきて、弟は三時から学習した仲間に入りゲームを始めた。U君は「僕は早く帰るから」と言ったので、じゃゲーム終るまで判るところだけやってと言うとすぐ勉強し始めた。三時から学習する生徒は五十分から四時まで十分間遊び、四時から学習する生徒は四時十分まで先に遊び勉強をする。だから三時から生徒は四時十分まで遊んで帰り、四時からの生徒は三時五十分にはきて矢張り四時十分まで遊び楽しんでいる。珍しくゲームに入らず勉強を始めたU君は三分とたたないうちに「先生、ここ判らないから教えろ」と言うより早く机の上にあったカードを全部両手でメチャ／＼にし一枚残らず飛ばした。皆あつけにとられてた。U君皆楽しんでいるんだから早く拾って謝りなさい。「いやだ、早く教えろ」と命令口調で頑張っている。皆で決めた約束だから守ってよ。早く拾って謝って勉強しようよ。「拾わない、早く教えろ」の一点張りで我を通そうとした。他の生徒は時間を守り勉強始めた。U君カード拾って謝らなければ私も教えるの止めたと言って、勉強よりも今日は駄を学ぶことにした。弟も心配そうに見ているが、他の生徒に目を向け全員帰した。U君拾うの手伝うからと言っても「いやだ、拾わない」と拾おうとしないので無視して自宅に帰った。弟と帰るだろうと思って

いたが、自宅へ回ってピンポンと押した。泣き乍らまだ「教えろ」の連発である。

U君の泣き顔は見たくない、早くこのタオルで顔を拭きなさいと出すと受け取り顔にあてた。U君を私はとても好き、カッコイイし頭がいい、だから地区の将棋会で上位、弟にだけでなく皆に優しく、宿題だって忘れたことがなく実行力がある。学校でも社会でも、リーダーになる人だよU君は。だから今日の我侭は許せない。ジュース飲んで帰きなさい。お母さん心配してるよ。「先生タオル有難うございました」と弟と帰宅した。すぐお母様に電話を入れると「ちよつと意固地なところがあつて困っていました。怒っていただいて有難うございました。」と御礼を言われた。旅行の土産、クリスマスのケーキを手作りし持たせて下さる。U君は六年だが、算数は中一を、ゲームも楽しんでる。

中学生のHさんが夏休み友達が体験学習したいと言っていたのでいいですかとのことでHさんがよければどうぞと初日を迎えた。ところが友は来なかった。食べる金と小使いを毎月二千円母親にもらい、足りない場合は、姉さんの手伝いをしてパンを食べたり、古着をもらつて着ている。母親は食事の仕卓はしないという。H宅へ遊びに行つては、おにぎりをもらつて、土曜日にはよく泊るとのことである。体がだるいと保健室へ行き、話を聞いた先生は泣いてしまうとのこと。父母姉と勤めていて車だつてある。Hさんのお母さんの話は「私も困っているんですよ。見ると可愛想になるし、ある物食べさせてあげるんですよ」とのことで何て理解しがたい家庭があるものと思う。

無料の体験学習を友にとHさんは計画したが、友の母にカットされた。

五月のある日、成績はよく礼儀正しく欠点の無かったS君が「今日は勉強やらない。勉強なんて何でやらなきゃいけないの。誰が決めたの」と言い乍らゴロツト寝た。今日はどうしたの。友と気まずいことでもあったのと聞くと「そんなものは何もない。今日はやりたくない」と言い学んでいる生徒に話しかけ迷惑だ。今日は一枚でいいから早く帰つて休みなさいと言つても動こうとしない。見かねた同じ四年生のI君が「S君先生に対してそんな態度はないだろう」と怒鳴った。勇気ある態度に救われ感動した。がS君は二時間何もせず帰った。

初めての非常事態にショックだった。学校より先々と進むことを喜び頑張っていたので私も調子にのり進めていたので、私に対するストレスが爆発したものと思った。私の手に負えないと思い夜電話を入れるとお母様は、「ゲームで兄と言いつていましたから、すみませんでした。家で勉強させるの大変なんです。我侭で大声出すし、でも塾へは楽しんで行くので喜んでいいところです」と明るい声である。

学級崩壊、キレの言葉を自分とは無関係と思つていたが、指導力の無さを知らされた。

(すずき さちこ・一九八三年卒)